

第19回 浦添市軍用地跡地利用計画審議委員会（令和5年度第1回）

会 議 録

日時：令和5年11月7日（火）14:00～16:30

場所：浦添市役所 6階 601会議室

【議事要旨】

審議委員会成立の旨の宣言	
事務局	<p>開会に先立ち、委員に変更があったので報告する。5号委員の波平康委員は人事異動に伴い、令和5年5月10日付けで解嘱し、後任として同ポストの仲間正文委員に委嘱。2号委員の上原史久委員も人事異動に伴い、令和5年7月3日付けで解嘱し、同社の玉城祐一委員に委嘱。</p> <p>本日は、審議委員17名中12名の出席となっている。本会規則第7条第2項に基づき、本審議委員会は成立する。</p>
会長	<p>今回、傍聴を希望する方がいらっしゃる。傍聴に関しては委員会規則に明確な記載がなく、本会規則第9条に従い、会長が定めることとなっている。本日の主要な審議案件であるパブリックコメントを個別に検討する際、各委員のご発言が制限される可能性もあると考えられるため、具体の審議の場においては、傍聴者に退席してもらいたいと考えているがいかがか。</p>
委員一同	(異議なし)
1 開会の挨拶 西部開発局長 知念 賢論	
西部開発局長	<p>本委員会は各界を牽引する皆さまのおかげで成り立っている。前回からは時間が経過しており、本年度は第1回目となっている。8月に市民・地権者説明会を実施した。今回も活発な意見交換をいただきたい。</p>
2 議事録署名人の選定	
会長	議事録署名人は、千住委員と池村委員にお願いしたい。
委員一同	(異議なし)
3 本日の報告事項（跡地利用計画（素案）、地権者/市民説明会の開催結果）	
事務局	(資料2・資料3を説明)
会長	只今の報告事項について何かご意見があれば挙手をお願いしたい。
委員一同	(意見なし)
4 本日の議題（パブリックコメントの意見について）	
事務局	(資料4を説明)
会長	<p>皆さまには予め資料を配布していたが、多くのパブリックコメントが集まっており、牧港補給地区跡地への期待の高さを感じる。まず、パブリックコメントに対するお考えや感想を承りたいと思う。</p>
B委員	<p>今回185件・51名ということで、地権者以外に市民も関心があるものだなと感じたため、賛同が得られる跡地利用計画を検討していただければと思う。</p>
L委員	<p>185件という多くの意見があり、沢山の関心があると感じた。意見の中には街路樹や道路などの専門的な意見もあったため、跡地利用計画に上手く反映していれば良いと思う。</p>
M委員	<p>関心の高さを感じる。私からは2つ。まず1つ目は様々な意見の中で相対するものがあつた。例えば、地権者の意見を優先すべきだという内容と、交通渋滞等の市全体に関わるもの等広く意見を聞くべきだという内容。このような相対する意見をどのように兼ね合いを図っていくかが大切だと思う。2つ目は計画を策定する以外について、例えば合意形成、企業誘致、進捗管理等の様々な準備が大事</p>

	<p>だと思う。やり直し等が発生した場合、後々影響が出てしまう。兼ね合いと準備が必要だと強く感じた。</p>
N委員	<p>意見の数が多かったことはそれだけ注目度が高く、それだけ意見集約も大変だったと思う。また、今後検討する中で出来ること、出来ないことを見極めていただきたいと思う。</p>
会長	<p>皆さま貴重なご意見ありがとうございます。今回、寄せられたパブリックコメントの件数は、沖縄県と基地所在自治体が大規模基地跡地関連で募集した先行事例に比べて大変に多いと思う。どの自治体も跡地利用について、どうやって市民の関心を高めるかに苦慮している。一方、事前に事務局から説明があった通り、本跡地利用計画については予想を大幅に超える数のご意見が集まった。審議委員会は中立な立場であることから、市の姿勢を尊重しつつも、提出されたご意見を十分に考慮する必要がある。寄せられたご意見を丁寧に柔軟に受け止めバランスを取りながら、本計画が市民の声を反映・調和できるように審議したい。</p> <p>この後は、今回のパブリックコメントをどのように跡地利用計画に反映させるかについて具体的に審議していきたいと思う。傍聴者についてはここでご退室をお願いする予定であったが、傍聴者はいないためこのまま議事を進行する。</p> <p>ここからは分類番号の順に意見を伺いたい。今回の審議委員会を経て、資料2の跡地利用計画（素案）が文章化され報告書としてまとめられる。そのためこの後の審議では、ご意見と併せて根拠も述べていただくと、取りまとめやすいかと思う。なお、本日欠席している委員の一部から事前に意見をいただいているので、先に事務局から紹介をお願いしたい。</p>
事務局	<p>他にも事前に意見はいただいているが、審議の中で委員ご自身からご発言いただきたいため、欠席されている委員の分だけ紹介する。</p> <p>1人目の委員より3つご意見をいただいている。まず1つ目はパブリックコメントの多さが示す市民意識の高さに関して、今後浦添市の市民参加型まちづくりへの展開や、市民と跡地のまちづくりの接点となる場の確保についてご提案があった。2つ目は指摘が多かった海の保護に関して、海の総合的な価値に関する調査の実施や、海の価値に対する埋立て・軍港の影響の把握についてご提案があった。3つ目は土地利用に関する多様な意見に関して、審議会の役割や、歴史や文化等のまちづくり専門家の計画検討委員会の発足や、土地利用検討に向けた基地内踏査の実現についてご提案があった。</p> <p>続いて、2人目の委員よりパブリックコメントの分類全般についてご意見をいただいている。現時点における今後の検討ステップの他、各ステップでの検討項目や決定を予定している内容など、跡地利用計画を今後どのように具体化していくのかを示してはどうか。また、明確なコンセプトが見えないというコメントもあるように、掲げている「イノベーション拠点の形成と環境先端都市の形成に重点をおいた地域を目指す」というコンセプトの浸透や理解が不足していると思われる。どのタイミング・ステップでより明確・具体的に示すのか、議論するのかを示すことは出来ないかというご意見をいただいた。紹介は以上である。</p>
会長	<p>分類番号1「地区の概要（返還時期に関すること）」について、ご意見を伺いたい。先に、欠席している委員からのご意見をご紹介したいと思う。</p>
事務局	<p>支障除去に関する対応（案）についてご意見をいただいている。返還時期は米軍の移設スケジュールによるもので、コントロールできないものの、返還後の支障除去の短縮化に向けて国に要請するなど、浦添市側の姿勢を具体的に示してはどうか。というご意見をいただいた。紹介は以上である。</p>
会長	<p>今後、支障除去について検討していくものと思うが、市には「事前の立ち入り調査の許可」等も改めて国に求めていただきたいと思う。早い段階から基地内の実態を確認できることは、迅速な跡地利用計画の策定と実施に向けて、今後どのような特措法の提案が必要かを検討することにつながる。</p> <p>続いて、分類番号2「地区の概要（その他）」についてご意見はあるか。</p>
委員一同	<p>(意見なし)</p>
会長	<p>続いて、分類番号3「国の方針・社会動向」についてご意見はあるか。</p>

委員一同	(意見なし)
会長	続いて、分類番号4「地区の特徴」についてご意見はあるか。
L委員	No. 18 の対応（案）では「本跡地利用計画では、地区全体の大きな方向性を示していくことを目的としております」とある。残り何回くらい改定を予定しているのか、また改定毎にパブリックコメントを実施するか等疑問に思った。また、対応（案）には策定後柔軟に対応します、今後検討します、行っていきます等と様々な表現で記載しているが、スケジュールを示すと捉えやすいのではないかと思う。事務局への要望である。
会長	現時点での考えでよいので、応えられる範囲で事務局から教えていただきたい。
事務局	2013年に発表された統合計画において2024年度以降に返還が予定されているため、まずはその約束を前提に今回の跡地利用計画を策定している。一方、来年度以降に返還の可能性はあるが、現時点では明確な返還日が示されていない中、どこまで具体的に記載できるか頭を悩ませているところである。その兼ね合いの中で、今回の計画においては、長期的に変わらない考え方として土地利用・道路・各分野の方向性を取りまとめていきたいと考えている。今回の計画で終わりではなく、この計画をベースにし、次年度以降も検討を積み重ねていく予定。その積み重ねの中で、必要があれば改定するかもしれないが、現時点ではそこまで想定していない。また、何回改定するか、改定毎にパブリックコメントを実施するか等も現時点ではそこまで言及できるものではない。適宜、適切な対応をしていきたいと思う。
会長	本跡地利用計画の策定は、1日も早い返還実現を目指す思いで始まったものであると思う。他方、牧港補給地区を外側から見ると、返還条件となっている施設の移転が進んでいるようには見えないため、2024年度以降どのような動きになるのか不透明な印象を持つ。基地を抱える自治体は、こうした状況の中で跡地利用計画を考えていかなければならない。返還時期の影響を受けない揺るがない理念を掲げ、軸を持つ必要がある。 続いて、分類番号5「地区のコンセプト」についてご意見はあるか。
E委員	コンセプトについて不満がある意見や、歴史や文化に触れて欲しいという意見があった。文化や歴史について、浦添市美術館に那覇港湾の屏風図がメインの展示物として展示されているが、絵からコンセプトを考えるのはどうか。その絵には、外国船や首里城近辺で琉球の人々の宴会の様子が描かれているため、沖縄らしさがわかると思う。前回は浦添らしさについて意見があったと思うが参考にする面白さを感じる。私からの提案である。 先ほどの支障除去について、約25年前にアメリカの軍用地の返還について取材したことがあり、地下水を浄化するための作業をしていた。その際、相手に聞いた話だが、返還前から支障除去を始めれば良いのではないかとということだ。市長等から国防省に要望すれば了承していただけるのではないかと。
会長	「返還前の支障除去」については現段階では難しいこともあると思われるが、新たな道を切り開けると良いと思う。
O委員	普天間西地区は住宅地であったため、ほとんど有害な廃棄物が出なかった。しかし、北谷町のハンビー飛行場ではマンションを建設した際に有害な廃棄物が発見されたため、防衛省と北谷町と相談して除去をした。返還後も有害な廃棄物が残っているとされており、地面を掘ると有害な廃棄物が出てくる可能性がある。有害な廃棄物を焼却し元に戻すには多くの時間を要する。伊平地区では自動車整備工場が並んでいたが5年ほど要した。浦添市においてはいかに早く除去するかが大事だと考える。 また、民有地は約86%であり浦添市民はその半分程度ということだが、残したい人、売りたい人の意見を聞き、建物を賃貸する際には浦添市にお金が落ちる仕組みが必要だと思う。No. 19にもそのような意見がある。埋立する土地も浦添市の土地として上手く利用していただきたい。埋立した良い土地を市外に渡すのは勿体無い。

会長	パブリックコメントの中に、地元資本を 51%以上にして欲しいと意見があった。地元で経済が循環する仕組みをつくれればと思う。また、コンセプトについて本計画では「人と環境が共生するスマートイノベーションシティ」としている。スマートイノベーションについては企業様が最先端の技術をお持ちだと思う。関係企業の委員の方からご意見いただきたい。
G委員	パブリックコメントの中に渋滞問題についてあったので、最新の技術として、AI活用による交通量予測の技術について皆さまにご紹介したい。弊社では過去にこの技術を用いた実証実験を実施しており、その際には、過去2年間のデータを用いて1時間単位で先1か月の交通量を予測し、高い精度での予測を実現することができた。この技術をまちづくりに活かすことで、イベント開催時の対策や物流等の配車計画をより効果的なものにすることができる。また、この交通量予測はオープンデータを活用するため、カメラ等の設備投資無しで実施することができる。その他にも気象情報、周辺施設のイベント情報等をAIに読み込ませ、より具体的な渋滞予測ができるようになってきている。この技術は地区のコンセプトをより具現化できるものであり、エリアの価値向上に寄与できると思う。今後も常に進化し続けるまちづくりの具体例を示していきたい。
会長	スマートイノベーションシティについて、現在社会が抱えている課題や浦添市が抱えている課題を解決していくシステムを取り入れていければと思う。
I委員	コンセプトに沿ったまちづくりが重要だと思う。以前までの東京モーターショーでは車がメインだったが、現在開催中の東京モビリティショーでは移動に関するモビリティの最新技術が紹介されており、想像しているより早い段階で自動運転等は実現していくと感じた。 大袈裟かもしれないが沖縄・日本を牽引するまちづくりをしていく必要があり、浦添市にしかできないこととして、エネルギーの地産地消等を目指していく必要があると思う。また、完成した素晴らしいまちの中に一般車両が通過するとイメージと異なってしまったため、車両規制をしていく必要もあると感じる。
会長	最先端技術について紹介していただいた。エネルギーの地産地消やカーボンニュートラルなまちを目指していければと思う。また、陸路だけを考えていたが視野を広げて海路を考えた際、ドローンを活用した技術も検討されるか。
G委員	社会課題の解決に寄与する取り組みとしてドローンを活用した実験がされている。最近注目されているのは、遠隔地間のドローンによる荷物の運搬である。浦添市から粟国島、座間味島等の慶良間諸島エリアは十分に可能な距離となっている。これらが実現できれば、県民の利便性も上がり、沖縄を牽引するようなまちづくりが実現できると思う。今日の日経新聞にも空飛ぶ車についての記事が出たが、これらの技術の実用化はもう目と鼻の先だと感じている。
会長	ドローンを用いることで海域へと視野を広げ、牧港補給地区から発展させられるような最先端技術を考えられればと思う。
P委員	浦添市がどうしたいかが大事。カーボンニュートラル、イノベーション等は枝葉の話だと思う。このような街にしたいという浦添市の思いが前に表れ、何のために誰のために国際都市にするかを考えた方が良い。まずは、浦添市が何をしたいかを積み上げていくと良いのではないかと。また、ウォーターフロントエリアについて、エリアと海の間には臨港道路が通っている点、計画上ビーチにはならず岸壁になる点等から、何を根拠にウォーターフロントエリアと位置付けているのか。 他の市町村と横並びになる必要や上層部を気にする必要はないと思う。今は便利に見えて機械化が進み逆に不便で住みにくい世界であるため、あまり機械をいれないでいただきたい。まちびらきが何年後の話になるかは分からないが。
会長	ご意見有難うございます。牧港補給地区の跡地利用は大規模再開発となるが、渋谷などの大規模な開発とは性質が違うものである。基地がある市町村は戦後、インフラ、産業等の整備が思うように進まなかった。長らく使えなかった土地が返還されることで、都市が抱えてきた課題を解決するきっかけになることが跡地の役割であろう。従来のような再開発で経済発展を第一に目指すのではなく、も

	う少し公共性を持つ必要があるのではないかと。また、牧港補給地区だけに目が行きがちだが、浦添市全体を見ながら、浦添市第5次総合計画や都市計画マスタープラン等とも連携して進められたらと思う。跡地利用の準備ができていることを示して早く返還を実現するよう投げかけたい。
N委員	地権者の立場からとしては先祖から受け継いできた土地を大切にしてきたことと、大切にに使っていただきたいことが大前提にある。コンセプト、経済発展、IT、イノベーションは必要だと思うが、このキンザーの場所である必要があるのかと感じる。県全体としては観光で盛り上がるべきと考えている中、整合性が取れているかが懸念事項である。皆さまの意見を伺いたい。
会長	ご意見有難うございます。県全体でどのようなお考えを持っているか、沖縄県の委員からお考えを伺いたいと思う。
P委員	町の名前は決まっているか。
会長	決まっていない。
L委員	コンセプトについて、県としては平成25年に、浦添市も一緒に中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想を策定しており、整備の基本方針を3つ掲げている。1つ目は広域交通インフラについて中南部都市圏を一体的に開発すること、2つ目は戦争で失われた緑のネットワークを創出すること、3つ目は沖縄県県土全体を牽引するような跡地の振興計画にすることである。また昨年、新21世紀ビジョン基本計画を策定しており、その中で牧港補給地区については「県都那覇市に隣接する広大な面積を有しており、その開発のあり方が本県の発展に大きく影響することから、国及び浦添市と連携し、浦添市西海岸と牧港補給地区の一体的開発に向けた計画的な整備を進めます」と表現されている。コンセプトも大切だが、県土の持続可能な発展に必要な開発が必要だと思う。
会長	企業側より、牧港補給地区の跡地利用次第で沖縄が一挙に変わるというご意見をいただくことが多い。振興拠点の考えがあるように、観光だけではなく、県全体の産業振興のきっかけになるようなことも想定される。浦添市の立地的特性から、都市的な役割が必要であると思う。 続いて、分類番号6「土地利用」についてご意見はあるか。
B委員	土地利用について、広大な土地であることから公園に関する意見が複数ある。昔のように行政が公園を造成・管理するのではなく、企業に管理させる方法もある。企業が公園を盛り上げて地域の活性化を図る取り組みが全国的に広がっている。以前研修で行ったことがある大阪の天王寺公園“てんしば”もその一つである。キンザーの中にもそのような公園があると良いと思った。 また街路樹について、木を植えた後の管理が難しいと感じる。台風後の落ち葉の撤去も民間の私たちが実施しており大変である。住まわれる方に環境税をいれていただき、市が管理するシステムを構築し、クリーンなまちづくりをしていくと良いと感じる。
E委員	資料2のp9に写真をみると20~30mの高台部にアパートがあると思うが、とても景色が良いと思う。ハワイでは、土地の価格が高い順番として、1番目に海辺の土地、2番目に海辺が見える土地、3番目にゴルフ場が見える土地、4番目はゴルフ場・海辺が見える土地である。海辺にはリゾート地、ゴルフ場・海辺が見える土地には住宅地などはいかがか。つまり、単純に北から南に土地利用の配置を考えるのではなく、海辺、平地、斜面、高台に分けて土地の配置を考えると良いと思う。
会長	この点に関して事務局から何かあればお願いしたい。
事務局	資料2のp35に良好な景観形成についての方針を示しており、「美しい眺望を最大限活かしたまち並み景観」を掲げている。委員のご発言も参考にしながら、今後の検討課題にしていきたいと思う。
E委員	パブリックコメントの中で、川を活用して欲しいという意見があった。やはり、エリア内に川を通すのはどうか。また、自然を壊すことを懸念している意見もある。1991年にバリ島で開催されたPATA(アジア太平洋観光機関)総会を取材した際のテーマは環境を豊かにする(エンリッチ・ザ・エンバイロメント)

	というものであり、「ストップ環境破壊」を決議した。
会長	有難うございます。事務局、宜しいでしょうか。
事務局	具体的なご意見を有難うございます。今後の検討にしていきたいと思う。
会長	パブリックコメントの中には建物の高さ制限、スカイラインについてもご意見があったため、検討出来ればと思う。
P委員	事務局に質問である。自然豊かなエリアを設定しているが、恐らくそのエリアにはPCB等もあると考えられる。その点も意識して緑地公園にしているのか。また、カーミージー等に広がる緑地は崖地があり危険ではないか。
事務局	自然豊かなエリアにした要因は大きく2つある。1つ目は海側の自然環境を保全する区域があること、2つ目は県道港川道路を挟んだ地区外エリアにある大きな既存緑地があることである。 支障除去については、浦添市としても国にしっかりと実施いただくことを前提としている。危険物が残るため、緑地にするということではない。 資料2のp22で示しているのは、西洲等と連携したイノベーション・業務エリア、交流賑わい空間と一体的考えていきたいウォーターフロントエリア、既存市街地と連携した高台の都心エリア、自然豊かなエリアであり、地区を大きく4つに分けているものである。そこから、エリア毎にさらに土地利用ゾーニングを考えている。
P委員	承知した。加えて、右側の既存緑地エリアは危険であるため後から開発した方が良いと思う。
事務局	ご意見有難うございます。
E委員	海辺が遠くなってしまう懸念が出ているが、第1回目から話していることだが内陸に運河を作ってはどうかと思う。運河はなめらかにくり抜いて砂を入れ、両岸にビーチをつくり、コテージ風の客室を並べると一泊5万円以上の高級な客室ができ、周辺はリゾート地として土地の価値が上がると思う。
L委員	No.125の意見では「構想全体にわたって、浦添市の既存のまちとの関係が全く示されていない」とあり、その対応(案)は「本地区のまちづくりを通して浦添市全体の発展を目指して参ります」とある。跡地利用計画において、屋富祖通りの既存市街地の再開発における移転先になること等を考えられるかどうか教えていただきたい。
会長	事務局何かあれば。
事務局	地区外含めたまちづくりについても考えているかというご意見でしたが、屋富祖地区・宮城地区は接收された方々が追いやられて社会資本が上手く行き届いていない状況であり、浦添市としても大きな課題であると捉えている。地区外エリアと連携した跡地利用計画も視野に入れながら、今後深掘りして考えていきたい。
会長	パブリックコメントにもいくつかあった通り、周辺市街地、近隣自治体と連携したまちづくりが必要である。全体として発展できるようなまちづくりを進めていきたい。
C委員	今日の趣旨を確認したい。パブリックコメントに対して、市が対応する案について議論するという趣旨で宜しいか。
事務局	おっしゃる通り。市の対応方針について、イエスかノーか、またはそれ以外の意見についても広く伺いたい。
会長	最終報告作成に向けて、皆さまの意見を伺えればと思う。 続いて、分類番号7「道路」についてご意見はあるか。歩きたくなるまち、ウォーカブルなまちについて意見を伺いたい。
I委員	先ほどは最先端技術のモビリティがあることを示したが、個人的には基本的に可能であれば歩いた方が良く考えており、車はいらないと思っている。高齢者社会になる中で足腰が大事であり、家から外出することが大切である。しかし、歩くことが難しい方にはスローモビリティ等、歩く早さで動くモビリティもある。キンザーは南北3kmあると思うが、大きなバスが走るのではなくフットワークが軽いモビリティを導入していくべきだと感じる。

E委員	私も道路がない方が良いと思う。地下に道路を通し地下街を作り、地下シェルターを作る。地上の道路は細くし、見えなくして良いと思う。費用は防衛費を充てることができるのではないかな。
O委員	地下街は大賛成である。道路について自動運転等も良いと思うが、No. 22、No. 32 の意見にもある通り、極限に減らした方が良いと考える。片側2車線以上の道路は不要であり、対応(案)が曖昧であると感じた。道路は必要な道路、防災関係を確保できる道路があれば良いと思う。また、緑のシンボルロードは良いと感じており、道路沿道には公園を一体的に整備し、Park-PFIを活用していくと良いと思う。
P委員	本気な話であるが、仲西、宮城は交差点を地下から繋ぐのはどうかと思う。バイパスが浦添市を二分しているのが象徴である。
会長	貴重なご意見有難うございます。国道330号、国道58号でエリアが東西に分断されるのは好ましくないと感じるため上手く連携出来ると良いと思う。
O委員	道路でのイベントも良いと思う。
会長	ご意見有難うございます。 続いて、分類番号8「各分野の方向性(産業の創出・振興について)」についてご意見はあるか。
委員一同	(意見なし)
会長	続いて、分類番号9「各分野の方向性(通信体系について)」についてご意見はあるか。
G委員	通信体系について、自動運転等の最新技術の導入にかかる費用面を心配される意見があったので、茨城県の境町について紹介する。境町では、令和2年11月から全国に先駆けてシステムによる完全自動運転バスを公道で走らせているが、このバスの運賃は無料である。もちろん、バス運行事業としては赤字だが、町長は全国初の最新技術を導入することが、かかる費用以上の価値をもった自治体のプロモーションになると考え、いまの条件で事業を実施している。費用対効果の観点だけではなく、「キンザー跡地でしかできない」ことを実現することによる自治体プロモーションの観点を踏まえたまちづくりも大切だと思う。もちろん、自治体のマネタイズを考えて自治体が持続的に実施できるようにすることも大切である。
会長	自治体が持続的に実施できる体制は大切だと思う。 続いて、分類番号10「各分野の方向性(生活環境の整備について)」についてご意見はあるか。
委員一同	(意見なし)
会長	続いて、分類番号11「各分野の方向性(良好な景観の形成について)」についてご意見はあるか。
L委員	景観について海への眺望も大切だと思うが、海側からの眺望も大事だと思う。
A委員	分類番号10の生活環境の整備についてNo.162は自転車の話であるが、自転車専用の道路を整備していただきたい。電動キックボード等のモビリティが普及している一方で事故が多発している。安全に利用できる専用道路を整備していただきたい。
会長	ご意見有難うございます。 続いて、分類番号12「各分野の方向性(自然環境の保全・回復について)」についてご意見はあるか。
委員一同	(意見なし)
会長	続いて、分類番号13「地区外のことについて(那覇港湾施設の移設や西海岸開発等について)」についてご意見はあるか。 44件と非常に多くのご意見をいただき、牧港補給地区の外ではあるが市民の思いが伝わってくる。審議委員会は中立の立場にあるため、これらの意見をどのように取扱うか検討したい。
C委員	事実に基づいたものを淡々と回答している印象があるが、その認識で良いか。

事務局	おっしゃる通り。市としての取り組みを示しながら事実を回答しているもの。
N委員	もう一度確認したい。我々はあくまで跡地利用を議論する場であり、地区外エリアについてはこの場で議論するのは少し違うと感じる。
会長	市の方針は尊重するが、他方で将来の社会情勢の中で生じる変化もあるだろう。どのような跡地利用が浦添市の発展に繋がるかを考えていくことに意義があると思う。 また、昨今の地方創生では地域資源を活かすことが基本となっている。豊かな地域資源があるからこそその跡地利用計画であるため、その点を踏まえてご意見を頂ければと思う。
P委員	先ほどの発言の通り、事務局はノーコメントで良いと思うが、ノーコメントは出来ないため何かしらの色を入れた方が良いと思う。大変だと思うが。
会長	この場は軍港の是非を問うものではない。地域資源を活用しながら地域を再生する視点で本計画を検討するということである。浦添市が保有する貴重な地域資源の価値を念頭におきながら、パブリックコメントで集まった市民の思いを反映し、未来へ希望の持てるものとなればと思う。
P委員	分類番号 13 のご意見に対する対応（案）について、苦渋の決断、受忍等の表現がある。文言の統一を役所内部でした方が良いと思う。
会長	市の方針は方針で良いと思うが、パブリックコメントにご意見を提出された方々の、この空間を大事にして欲しいという気持ちは十分考慮される必要がある。そのため、市民の思いも汲みながら最終的な報告ができれば良いと考える。
E委員	軍港はできてもいずれ不要となる。キンザーの中に海を作って、土地が減った分、新しい土地となる軍港に申出換地をし、従来通り、軍用地料をとってはどうか。
会長	ご提案ということで承わる。
O委員	埋立について昔は約 57ha を予定していたが、カーミーゼエリア一体を保全する動きがあり自然環境を保全する区域ができたことにより、埋立が約 30ha に減った。これは自然に考慮した結果であると思う。
P委員	会長は地区外エリアに関して文言を入れた方が良いと考えるのか。
会長	軍港に対して是非を問うものではない。項目 13 について 44 件のご意見があったことを踏まえ、将来の豊かな発展の可能性について、このエリアの貴重な地域資源の価値も念頭に発展を考えるという意味は含んで良いと思う。
P委員	問題は文言の表現についてである。軍港は景観上良くないと記載するのか、自然環境を残すためには黙認したくないと記載するのか等。
会長	最終的な記載については市のご判断だと思うが、審議委員会としては中立な立場で検討したいと思う。
A委員	パブリックコメントを真摯に受け止める必要があるという会長の気持ちは良いと思う。対応（案）を拝見したが、場合によっては誤解されて炎上してしまう可能性があるため、市だけの意見ではなく、事実を記載しながらバックデータを示せるようにしていただきたい。対応（案）については委員に確認してもらう必要があると思う。
会長	本日お配りしているものは既にホームページに公表しているもので、これをもとに審議している。
C委員	ホームページに公開しているということだが、どのように掲載しているのか。
事務局	ホームページにはご意見に対する対応（案）ではなく、「市の考え」としている。浦添市は浦添市、審議委員会は審議委員会であるため、最終的に浦添市と審議委員会の考えが違うことも可能性としてあり得る。その中で本日審議いただいた内容をどのように計画書に反映するかを考えていきたいと思う。
会長	分類番号 13 「地区外のことについて（那覇港湾施設の移設や西海岸開発等について）」をどのように取り扱うか、パブリックコメントを踏まえ地域資源の価値について、今後の計画書の中で審議できればと思う。このような形で宜しいか。
委員一同	(異議なし)

会長	<p>続いて、分類番号 14「その他（土地区画整理事業や支障除去等について）」についてご意見はあるか。</p> <p>支障除去については冒頭でもあった通り、報告書の中で特措法へ働きかけるような記載をしていくべきだと考えている。</p>
委員一同	(異議なし)
会長	続いて、分類番号 15「その他」該当ページなし」についてご意見はあるか。
委員一同	(異議なし)
会長	<p>分類番号 1～15 までのご意見をいただき有難うございました。</p> <p>続いて、対応（案）の中で“地域特性や課題を踏まえて「まちづくりを行うにあたっての基本的な考え方（理念）を追加する」とあったが、どのように追加するかについて事務局に説明をお願いしたいと思う。</p>
事務局	<p>今回の計画書の策定にあたっては、浦添市の特徴を活かし、浦添の発展に繋がることを念頭に作業を進めてきたが、このような考え方を素案の中では明示していなかった。今回のパブリックコメントにおいても、浦添の歴史文化を重視して欲しい、浦添にしかないまちにして欲しい、持続可能なまちを支える人づくりに繋げたいというご意見があったことから、まちづくりの根底に流れる理念を明確化し、皆さまとも共有した方が良く考えている。書きぶりやキーワードについては、委員の皆様からもご意見をいただければと思う。</p> <p>また、コンセプトについて少し補足したいと思う。本市の 14%にあたる約 270ha という広大な土地におけるまちづくりにあたり、沖縄県全体を牽引していくような新しい産業を創出する拠点の形成を目指している。地区全体で複合的な機能を備え、そのような拠点に相応しいまちづくりを進めていきたいと想定しており、その核になるエリアがイノベーション・業務エリアだと考えている。パブリックコメントにおいても、具体の企業誘致について触れられているものが多数あったが、具体的な内容については次年度以降に順次調査を行い、検討を続けていきたいと考えている。また、高台の都心エリアやウォーターフロントエリア、自然豊かなエリア等においては、このような新たな産業の中で生み出された技術を先導的に実装する場や、世界中からここで働くために訪れる人たちの居住の場となることも想定している。パブリックコメントの中でもこのような意図が十分に伝わっていないと思われるものがあったため、補足説明した。</p>
P委員	地権者が大勢いる。誰が住むのか、誰を働かせたいか等が肝になってくると思う。
M委員	<p>行政の立場から話をしたい。1つ目、パブコメでは掴みどころがない、ロジックが不足等と意見があった。他方で、返還時期の不確定要素が多すぎると意見があったと思う。誘致条件等既に整理されていると思うが、今後は市民の皆様にどのような国際機関等の拠点施設を引っ張ってくるかを発信していくことが必要だと思う。学校や図書館等は住民生活に密接なものだと思うため、新都心やライカム等他の事例を参考にしながら発信していくと思う。</p> <p>2つ目、パブリックコメントの意見の中で、相対する意見があった。それらの兼ね合いが重要だと思う。地権者の意見を最大限に尊重する中で、コンセプトを明確化しなければならないと思う。国、県、市町村、企業、地権者等活用できるソースを明確化し、想定されるリスク・課題等のコントロールポイントを考えていく必要があると思う。今後合意形成、企業誘致等やらなくてはならないことが山積みである。非常に多くの人や時間、お金がかかってくるため、役割分担が大事である。</p> <p>3つ目、広報について不十分であるという意見があった。地権者は土地区画整理事業、減歩率、先行取得事業を十分に理解していない可能性がある。計画に賛成していても合意形成が難航すると思う。イベントや説明会を通して、今後も市民を巻き込んだ合意形成をしていく必要があると思う。</p>
会長	<p>ご意見有難うございます。</p> <p>コンセプトの上におかれる理念は長い文章ではなく、例えばキーワード3つ「環境」「文化」「自治」などを提案したい。</p>

	<p>「環境」については、自然環境、経済環境、社会環境を含むことができる。自然環境は自然を保全していくこと、経済環境は経済発展していくこと、社会環境は福祉や教育など社会生活全般のこと、それらがバランス良く考えられると良いと思う。</p> <p>「文化」については、浦添ようどれを始め、浦添市は非常に豊かな文化をもっておられる。本計画ではエンタメ等の新しいカルチャーの提案もあるが、街の品格は重要だろう。都市の風格を保つために「文化」で緩やかに調整できれば良いと思う。</p> <p>「自治」については、エネルギーを民間企業に委託するのではなく、例えば、浦添市が自ら運営する再生可能エネルギーなども検討される。エネルギー自治の実践は牧港補給地区跡地の持続的な発展のための投資を可能とするだけでなく、そこから生まれる原資を周辺の既存市街地の再生に充当できる可能性もある。また、復帰 50 年を超え、将来の沖縄振興計画による高率補助の継続について考えると、自治体の自立した運営のための仕組みを検討することは必要だろう。</p> <p>他にご意見はあるか。</p>
A委員	<p>地域電力が流行っている。CO2 排出量を軽減し、災害の際に供給できる仕組みもある。再生可能エネルギー、水素等を活用できればと思う。エネルギーの貯蔵について、通常は蓄電池を使用するが高価で寿命があるため、温熱等を活用してエネルギーを賄うことができれば良いのではないか。</p>
会長	<p>ご意見有難うございます。エネルギーについては今までにはなかったものが提案できれば良いと思う。</p> <p>本日はこのあたりで宜しいか。</p>
委員一同	(異義なし)
5 閉会の挨拶 跡地未来課長 大城 吉彦	
跡地未来課長	<p>本日は誠にお疲れ様でした。本日議論いただきましたパブコメについて、市民の関心が高いことを感じながら、また責任の重みを感じる部分もありました。次回は計画書をもとに議論していただきたい。</p>

